

白石市とのきずな
姉妹都市少年スポーツ交流事業「剣道大会」
8月4日(日)、総合体育館で、登別市と姉妹都市である宮城県白石市の小・中学生による『剣道大会』（登別市姉妹都市等都市間交流協会・市主催）を開催しました。
歴史的なゆかりから、昭和58年10月26日に姉妹都市提携の盟約を結んだ登別市と白石市は、青少年のスポーツをはじめ、教育、文化など、さまざまな分野で交流を図っています。
今回は、剣道に汗を流す子どもたち計29人が参加し、剣を交えるとともに、大会前日には、ふおれすと鉾山と一緒に宿泊するなど、多くの時間を共にし、きずなを深めていました。

白石市とのきずな

8/4

熱戦を繰り広げた剣道大会▶



▲大会に先立ち、一緒になってジンギスカンを食べながら交流を図った子どもたち

アイヌ文様を取り入れたトートバック▶



▲菅野茂さんの著書を参考とした小坂さんの講演に熱心に聞き入る参加者

アイヌ文化にふれる

令和元年度アイヌ文化講座

鉄南ふれあいセンターで、8月2日(金)から10月11日(金)までの計10回を予定している『アイヌ文化講座』（市教育委員会主催）の第1回目を開催しました。
今回は、アイヌ民族の伝統的な刺しゅうを施したミニトートバックを約3カ月間かけて制作します。参加者は、制作に先立って、登別アイヌ協会事務局長の小坂博宣さんによる『アイヌ文化と歴史』をテーマにした講演を聞き、自然と共に生きたアイヌ民族の生活を学びました。

完成した作品は、令和2年3月に同会場で予定されている『ピリカノカ登別アイヌ協会作品展示会』での展示を予定しています。

8/2

市民と共に考える将来の『登別市』

8/9

登別市都市計画マスタープラン改訂市民会議



▲約30人の委員が意見を出し合ったグループワーク

8月9日(金)、市民会館で、登別市都市計画マスタープランの改訂に向けた第1回目の『市民会議』（市主催）を開催しました。市は、平成14年度に、おおむね20年後のまちの将来像を見据えた現行の同マスタープランを策定し、計画的にまちづくりを進めてきましたが、人口減少や少子高齢化の急速な進展など、登別市を取り巻く状況が大きく変化していることもあり、現在、同マスタープランの見直しに取り組んでいます。
令和元年度は、市民の皆さんと共にまちの将来像を考えるため、応募などによって集まった委員による市民会議を計3回予定しています。1回目の今回は、都市計画マスタープランなどの概要や平成30年度に実施した市民アンケートの調査結果について確認したほか、『将来も快適で皆が暮らしやすいまちを目指して』をテーマにグループワークを実施。市は、より多くの皆さんの意見を取り入れるため、市民会議の委員を引き続き募集しています。興味のある方は、都市政策グループ（☎3230）に問い合わせください。

登別市都市計画マスタープランについて

約20年後のまちの将来像や課題に対応した整備方針などを定めたまちづくりの方針です。市は、令和3年度の公表に向けて、市民会議などにおける意見をふまえながら、現行の都市計画マスタープランの見直し作業を進めています。

平成30年度	令和元年度	令和2年度
市民アンケートなどの実施	素案の作成	原案の作成